

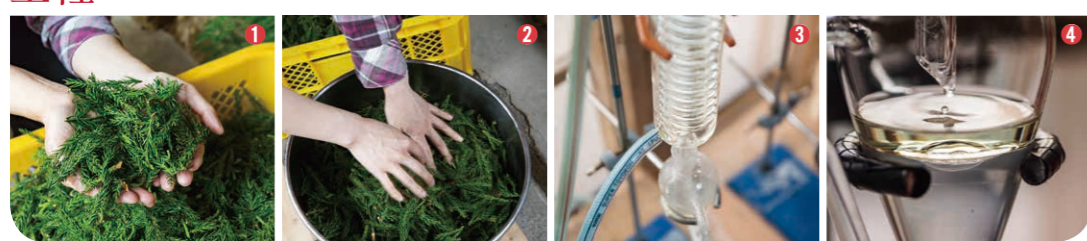


竹原さん(左)の祖母が住んでいた民家を改造した工房前で。「思いついたらすぐに突っ走る」という竹原さんと、「慎重で計画的」という堀さん。思の合った二人三脚で会社を切り盛りしている。



①「材料となる木は、採取する場所や季節によって香りも変化します。それが天然素材のおもしろさですね」と竹原さん。②アロマオイルは、アロマディフューザーとして使用できるクロモジの小枝と共に木箱に収められている。この木箱も商品がピッタリ収まるようにデザインにこだわっている。③主力商品「熊野の香り」は、アロマオイルやフローラルウォーターなど。「熊野杉Shibahara」「熊野クロモジ」などの種類がある。④「熊野の香り」を使用したチョコレート「4896」も人気。⑤笑顔の絶えないスタッフとともに、サロンではボディケアなどを行っている。

作業工程 ①細かくカットされた原料となる杉の葉。機械を使わず手で切るのも香りへのこだわりから。この段階で爽やかな香りが周囲に立ち込める。②カットした杉を蒸留釜に入れて蒸す。③杉の成分を含んだ蒸気が、らせん状のガラス管を通して冷却されて、滴となってフラスコに。④比重の違いによって水と油に分離され、油分がアロマオイルに、水がフローラルウォーターになる。36ℓの釜からとれるオイルはわずか20ml、販売ボトル4本分。



熊野の自然の香りを全国の人に届けたい!!

アロマオイル製造・販売 ● 竹原真奈美

天然アユが泳ぐ古座川のほとり。山を背景に建つ小さな工房に、一歩足を踏み入れると、森の中のようなやさしい香りに包まれた。「熊野の自然が育んだビュアな木の香りを、都会の人たちにも伝えたい」と。アロマオイルなどを製造、販売する株式会社エムアファブリーの竹原真奈美社長は話す。

古座町(現串本町)出身の竹原さんがアロマオイルの販売を始めたのは2013年。一度故郷を出て大阪で働いていたが、Uターン。新宮市で2006年にリラクゼーションサロンを開店し、ほぼ同時期に同じくUターンしてきた取締役の堀由起さんと知り合った。

都会から戻った2人が感動したのは「当たり前だと思っていた熊野の自然の素晴らしさ」だった。「春にはシロツメクサの香り、初夏には新緑の木々の香り…。熊野の山はまさに香りの宝庫だった」。地元の杉やヒノキの天然成分のみのアロマオイルを作って店で使いたいと思いついた、地元の熊野川町森林組合に相談したところ、「それは面白い。やってみようやないか」と協力をしてくれることとなった。

とはいっても、設備もノウハウもないゼロからのスタート。「道具選びから素材選びまで、何もかもが手探りだった」と堀さん。他の蒸留所に足を運び、森に入って素材を探した。まず初めに商品化を目指したのは熊野の杉だったが、その杉にも多くの種類があり、それぞれ香りが違った。1年間の試行錯誤を経て、柑橘類のような爽やかな香りを含むシバラスギなどいくつかの品種にたどり着き、自分たちが求めていた100%天然の和精油「熊野の香り」が完成した。

「気持ちが悪く着き、よく眠れた」「故郷の山を思い出す」。そんな反響が何よりの励み。世界遺産「熊野」の地から、できたてのアロマをこれからも届けていきたい」と2人は顔を輝かせた。

株式会社エムアファブリー

住所 / 新宮市緑ヶ丘3-1-29
電話 / 0735-22-0662
<http://m-affably.com/>

贈り物 神々が宿る 熊野の山々からの



太古の昔から人々を容易に近づかせない黄泉がえりの地「熊野」。その神聖な山々は、地元で生まれ育った竹原さんや堀さんにとって、「心のよりどころ。だ」という。良質な「熊野材」をはじめとする森林資源は、地域の財産として大切に受け継がれている。